

日頃、地域医療連携室にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

医療と介護を必要とする高齢者が、住み慣れた場所で自分らしく人生の最期を迎えることができるよう、在宅医療・介護の提供体制の構築が求められています。今年度の地域連携セミナーでは、ご家族の想いに沿った在宅での看取りについて検討しました。

今回は、セミナーの概要と参加者を対象にしたアンケート結果について、ご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

## 地域医療連携セミナー開催

- 日 時：平成27年10月9日(金)18:30～19:45  
 場 所：平鹿総合病院 講堂  
 目 的：在宅療養へ移行されたがん終末期高齢患者の一事例を通して、家族の気持ちに沿った、在宅支援・看取りのあり方を検討する。  
 テー マ：「家で看取りたい～家族の気持ちを支える～」  
 内 容：担当医、かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネージャーによる事例発表、友人による家族の手紙の代読、質疑応答  
 参加職種：医師・薬剤師・保健師・看護師・訪問看護師・ケアマネージャー・行政担当者等  
 参加者：112名

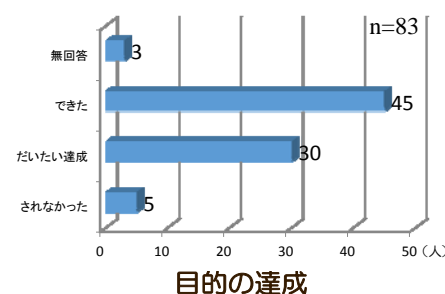
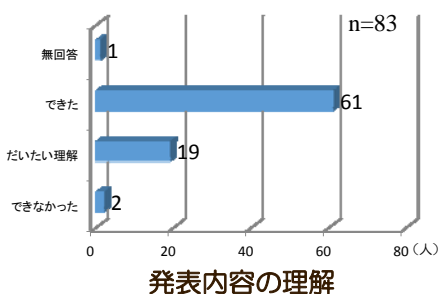
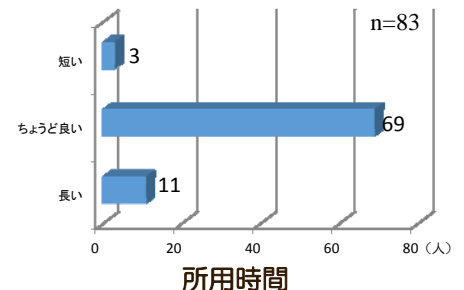
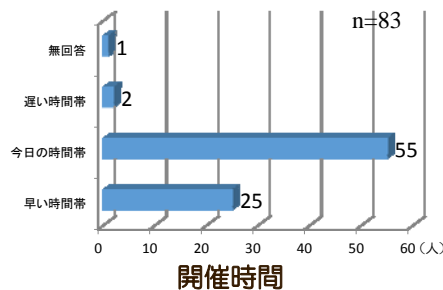
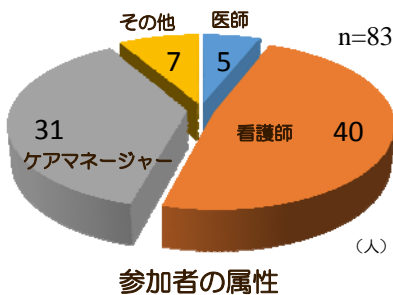


今回は、娘さんが自宅での看取りを希望された、左腎がん再発の83歳女性の事例を検討しました。急な退院でしたが、地域の多職種連携により、麻薬導入や介護サービスの利用がスムーズに行われ、ご自宅で家族が見守る中、最期を迎えられました。

セミナーでは娘さんの手紙が代読され、「時間を気にせず訪問看護師や薬剤師に相談でき、一人で看ている孤独感はなかった」の言葉に、24時間のサポート体制が家族の安心や満足につながることを、在宅の看取りにおける訪問看護師の役割が重要であることを再認識しました。

### セミナーに関するアンケート調査

回収率78%



- ご意見・ご感想(一部抜粋)
- ・家族の想いを、今後、在宅移行の際に役立てたい。
  - ・薬剤師の声を聞くことができてよかった。
  - ・多職種連携の大切さを改めて実感した。